

3歳児の男児が父親と戦いごっこをします。キックやパンチをするのですがどこまでやらせてよいのかがわかりません

保育園の保護者から

・大人が子どもの様子を見て手加減しながら遊ぶのは楽しいものです。その際、子どもがエスカレートしすぎて力加減が分からないようならば、してはいけないことはきちんと教えましょう。

・お父さんで行うからだを使ったダイナミックな戦いごっこは、親からすると「どこまで強く育ったかな。もっと育て！」と嬉しく楽しい遊びですし、子どもは自分も「お父さんみたいに…」と、強さに憧れて行うものです。しかし、親子の間でもルールがあり、何をやってもいいという訳ではありませんね。やがて剣道、チャンバラ、すもうなどと同様、技や知恵を競い合う事もありますから、「決まり、約束」はしっかり決めたくて楽しんで行ってください。

・その一方でちょっと考えて欲しいことは、「本来の子ども同士のごっこ遊びとは何か」という点です。以下のように箇条書きにしました。

・商業ベースに乗せられ、キャラクター商品に依存しやすい

①キャラクターごっこ ヒーローごっこ



・ことばのやり取りが単純で対話になりにくいなど、勧められる遊びではない

・ままごと・お店屋さんごっこ・病院ごっこなど

②ごっこ遊び



・役割をもって・遊びが展開し・対話をしながら遊びが深まる

・身近な大人に憧れて、真似て遊び、使う物を自分たちで考え作る

・ルールがわかる4、5歳頃になるとやがて子ども同士で技や知恵を競うことにつながる

・普通のごっこ遊びを並行して行う



・子どもと一緒に家事労働を楽しく行いながら、大人の働く姿を見せていく

③大人の役割

・子どもと一緒にごっこ遊びをすることで遊びが展開し、子どもの新たなイメージができあがる

・ダイナミックな戦いごっこは、けががないように、じゃれつきながら遊ぶ

【保護者より】

Q:スマホで動画（YouTube）。すごく集中しています。集中力があるってこと？

メディア機器の声や画像では子どもの満ち足りた感情や安心感と、健全な脳の育ちを保障することはできません。それどころか育ちの妨げになってしまうことを知りましょう。



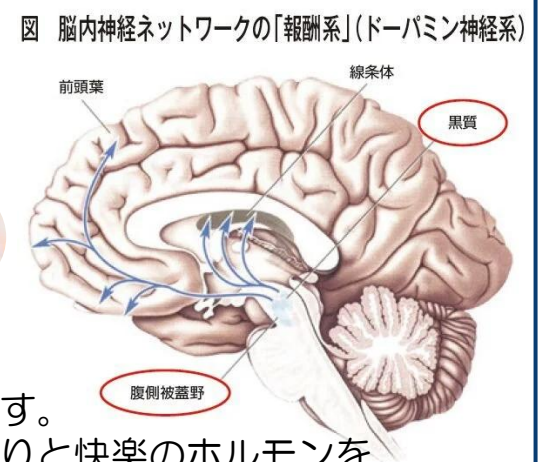
生来、赤ちゃんは人の体温や柔らかさ、向かい合った人の瞳の輝き（まなざし）や声に心地良さを感じるものです。そのなかで愛着関係を特定の大人と作りながら、「満ち足りた感情・安心」を得ていきます。このように、人間はもともと音がするもの光るもの・動くものに注意がむくようです。

そこで考えなければならない重要なことは・・・

カラフルで強い光や音を一方的に発信する動画ではどうかということです。子どものクリアな目や未熟な脳は、そこに見入ってしまいます。赤ちゃんが泣いている時に動画を見せると泣き止むのは、強い刺激によって、ストレスを感じながらも脳を一時的な釘付け状態にされるからです。生理学的には、図にあるように、報酬を期待するドーパミンとノルアドレナリンという脳内報酬系ホルモンを分泌して興奮を高めます。脳の中心部にある黒質並びに腹側被蓋野から前頭葉に向って、本当には「楽しんでいる」のではないのに、がんばりと快樂のホルモンを出しているということです。

本来ドーパミンは、乳幼児期は特に、ノルアドレナリンやセロトニンと並んで人との関係で幸福感ややる気・集中力を高める神経伝達物質です。これらのホルモンは三大快樂神経伝達物質と呼ばれているもので、脳内でバランスよく分泌されることが大切で、ドーパミンだけが過剰分泌になっているのは「依存症」・・・つまり、やめたくてもやめられないという状態になってしまっているということなのです。やっかいなことに、まだことばや認識力が十分に育っていない乳幼児期の脳は、光や動きのある映像、音に対して、勘違いと言っていいと思いますが、「楽しい」と感じやすくなってしまいドーパミンを分泌し、より強い刺激を求め続けていく方向に陥っていくといってもいいかもしれません。

そもそも「集中する」とは何でしょう・・・一つの目標や目的に固定して注意を向け、より高い成果を得るための精神活動です。また、これは人だけがもつ高次な脳、前頭前野という部分で大きくはコントロールされています。脳の育ちにも順番があり、乳幼児期は、脳の中心部（脳幹部）である「命を守り育てる脳」が主に育っていく時期です。もちろん大脳も育ち始めていますが、前頭前野は25歳くらいまでの長い年月をかけ、その間にいろいろな経験や学習を積み重ねて育ちます。前頭前野が未熟な乳幼児が、機械的映像刺激等によって集中力を高めるとするのは間違った解釈ではないでしょうか。百害あって一利なしです。



2歳児です。家では親の言うことを聞いてくれず、頑固で困っています。保育園ではどうですか？

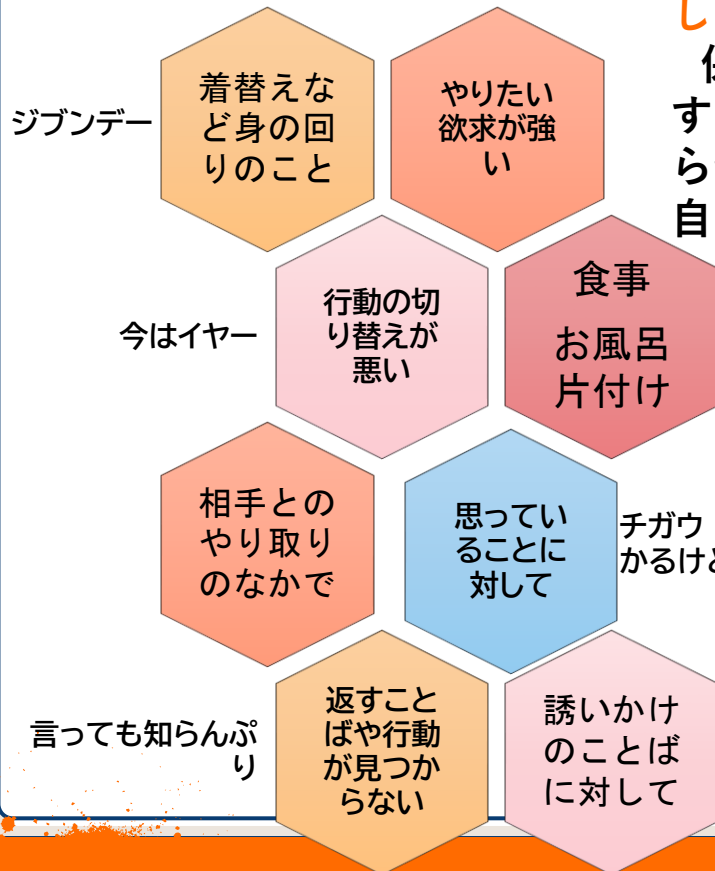


保育園の保護者から



これは多くの親御さんから質問されます。「親の言うことを聞いてくれない」という内容の具体例としては、図表のようなことです。「**生体の生活リズム**」が身につき始め、1歳半ころから「**自律性**」（*下図に説明）が芽生え始めます。ことばの理解と発話が進むにつれてやがて分かることやできることがどんどん増えてくる3歳ころまでは、**自律性が高まってきて自己主張が強くなっていきます**。これは、**子どもなりの判断基準を定め始める喜ばしい発達特徴**なのですが、この時期向かい合う大人は余裕と根気がないと大変ですね。

保育園でも左記のような光景はよく見られますが、**集団生活の場では、家庭にいる時ほど困らせることはほとんどなく、みんなほどほどの自己主張しながら先生や他児の様子を見て学び、頑張っ**て生活しています。お父さんやお母さん、先生たち、人によっても場所によっても、**いい意味で言動を使い分けている**のです。これも**社会性の育ち**としてはすごいことです。



チガウ! ダメ! 分かるけどしたくない

ここで大事なことは2つです。

① **ダメなことは「ダメ!」と威厳ある態度で一度で叱る。**

② **「〇〇しようか?」と笑顔で促す。** 口うるさくするのは厳禁です。この2つは、子育てを楽しくするコツとも言えます。

*** 自律性の育ちとは… 判断基準を自分で決めて、行動する力の育ち**



できることやわかることを増やしな

- できるorできない、を判断する
- 良いことor悪いこと、を判断する
- できないことは援助を求め、それに従う



生体の生活リズムの自律と規律性を獲得しながら

- 早起き・早寝 (6:00の自律起床・20:00自律就寝)
- 食事・排泄の自律
- 衣服の着脱・清潔の習慣などの自律

学校で、授業中に寝てしまう子にはどうしたらいいのでしょうか？

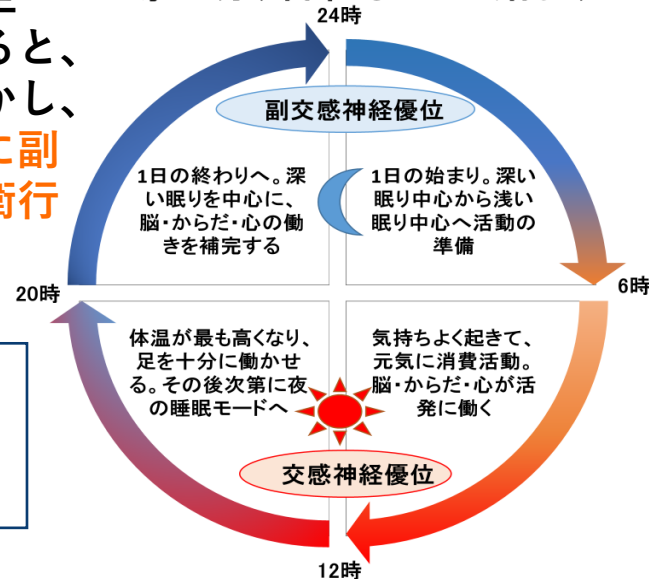


放課後デイサービス指導員
から

まず、授業中に眠くなってしまう原因を考えてみましょう。下の図に示したように、眠くなってしまう原因はいくつかあります。どれをとっても、**ストレス過多**で、起きていようとしても眠くなってしまいます。

ストレスへの対応には、夜間の睡眠を十分にとるという「**生体の生活リズム**」を整えることが一番です。夜しっかり眠れると、朝は交感神経は優位に変わって意欲的活動的になれます。しかし、**夜間睡眠が不十分だと、日中の退屈さやストレス回避のために副交感神経が優位に働いて、眠くなる、眠ってしまうという防衛行為が表れやすいのです。**

副交感神経主導から交感神経
主導へ切り替わる1日の始まり



学習には「ああそうか、わかった!」「できた!」という実感を、その時々にもてる必要があります。また「それってどういうこと?なぜ?」などと、疑問をもって考えていることに対しては、分かった時の喜びも大きいものです。さらにその学習が、生活や遊びの場面で具体的に役立てられると学習意欲がより高まります。学習の必要性・有用性は、考えて試行

錯誤の結果生まれる成功によって、自己可能感も「もっとわかるようになりたい」という学習に挑戦する気持ちも強くなっていきます。加えて、わかることもわからないことも一緒に考えて、それを言語化しながらやり取りができる相手がいると、学習のスピードが上がるのではないのでしょうか。

授業の内容が簡単すぎて、つまらない

- 興味が無い、湧いてこない。自分にとっての必要性を感じない
- 既に解っていることなので、退屈。知的好奇心をくすぐられない
- 一斉授業が楽しくない

授業の内容が難しくついていけない、つまらない

- 授業内容を理解できない。解り難い
- 解らないことが多くて、周囲から孤立した感じになってしまう
- 読み書き、計算などが苦手で疲れる

夜間の睡眠が不足していて起きてられない

- 椅子に座っている姿勢を保てず、机にもたれかかっているうちにボーっとしてしまう
- 夜間睡眠の不足。(短時間。眠りが浅いなど)
- 「生体の生活リズム」が乱れていて、朝から日中にかけてエンジンがかからない

保育園では重心児・重度の肢体不自由がある子の活動の充実をどうしたらいいですか？

保育士さんから



ムーミンの会の保育所では、重度の心身障害のある子や人工呼吸器などの医療的ケアが必要な子も通所が可能です。当会には保育所を含む複合施設が2か所あります。ですから、保育所の生活の一部に隣の部屋に移動するだけで児童発達支援「つむぎ子ども教室」を併行して利用することができるのです。もちろん看護師さんも作業療法士さんも複数人いますので、その子に合わせた支援がチームでできるよう努めています。

とはいうものの、保育士さんたちが重心児の担当者となると、集団保育の場では何についてどうやって関わっていったらいいのか戸惑うことが多いと思います。子どもをクラスに受け入れることになったら、下記①～⑧を理解しましょう。一人ではなく、複数の目で確認することが大切です。障害がある子も発達のみちすじは同じです。まずは視線を合わせて、笑顔で向かい合ってあやし遊びや軽い揺さぶり遊びをしながら、信頼関係を作ります。その後右図のように、うつ伏せで遊ぶことが好きになるようにしましょう。

①どんな障害か

- ・カラダ（脳・身体・こころ）器質的損傷について知る

②機能的損傷はどうか

- ・器質的損傷によりどんな症状が表れるか

③発作はあるか、投薬はどうか

- ・その投薬の効果は何か
- ・発作時の対応はどうか

④成育歴

- ・障害発生はいつ頃か
- ・今までどこでどんな支援を受けてきたか

⑤家庭環境

- ・家族構成と子育て応援者の有無
- ・生活リズムはどうか

⑥連携可能機関

- ・病院、療育センター、発達支援事業所など
- ・行政との関係

⑦現在の発達の状態

- ・できること、分かることは何か、やりとりはどうか

⑧発達課題は何か

- ・睡眠・食事・排泄・笑い・情緒の安定・運動・姿勢・手の働き・発声・言語など

直立状二足歩行獲得までのみちすじを大切に育てましょう

乳を飲む（舌の働き）・両眼視・首のすわり

うつ伏せで肘つき姿勢保持→腕立て姿勢保持

回りばい→後ろばい（寝返り*手押し車の練習）

両手・両膝ばい→（自らのお座り）

高這い→立位→歩行→かがむ
（○脚状＝両ひざが外側を向く）

歩く・走る・止まる（×脚状＝両ひざが内側を向く、短い時間ならば直立姿勢が保てる→片足立ち）

いろいろな協調運動・巧みな運動・直立と直立状二足歩行の獲得（平行脚＝両ひざが正面を向く）へ

1歳児の母親です。そろそろ職場復帰をしたいと考えていますが、幼稚園と保育園、どちらが教育的ですか？



子育て相談から



	幼稚園	保育園
管轄	文部科学省	厚生労働省
位置付け	学校教育法に基づく学校	児童福祉法に基づく児童福祉施設
対象年齢	満3歳から小学校就学前まで	0歳児から小学校就学前まで
教育・保育内容	幼稚園教育要領	保育所保育指針
標準保育時間	午前中～昼過ぎまでの4時間ぐらい	1日8～11時間が原則
入園条件	なし	仕事や病気などで家庭で保育ができない状態

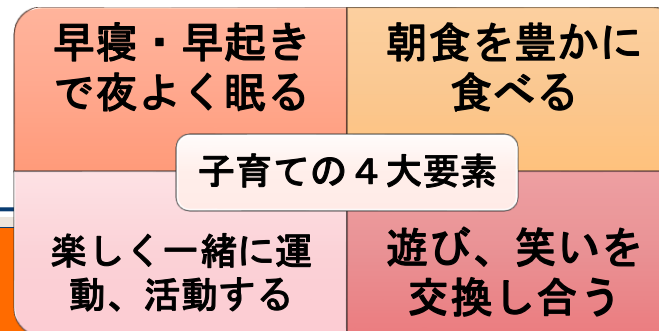
「幼稚園か保育園かで学力に差が出るの？教育面では、文部科学省管轄の幼稚園の方がいいのかな？」などと考える方が多いようです。しかし、そもそも乳幼児期は、大人の養護が必要で生活と遊びを積み重ねながら育つのですから、保育も教育も同じ意味合いで捉えていいと思います。確かに今わが国では、「子どもの貧困と学力格差」が問題になっていますが、学力の差は幼稚園卒か保育園卒かではないと結論付けられています。

では为什么呢。それは、**語彙力とコミュニケーション能力の高さ**が、児童期の学力テストの成績と因果関係ありと言われています。言い換えると、大人から一方的に教えてもらうのではなく、**具体的で楽しい経験を積み重ねながら「対話」し、学ぶ関係を築くことが大切だ**ということです。まずは、毎日の生活と遊びのなかで親子間で対話力を育てていきましょう。

上の表に、幼稚園と保育園の違いをまとめました。今の時代は、共働き世帯が多いですから、「今職場復帰を…」と考えているならば、1歳児で空きのある保育園を探すか、次年度から2歳児クラスで保育園入所を申請していくのがいいと思います。あるいは勤務時間を短縮するのであれば、「プレ幼稚園」を2歳児から、という方法もあります。幼保一体型の「こども園」もあります。

保育園にしろ幼稚園にしろ、公立に比べて私立の方が、方針、保育・教育内容に明確な特徴が打ち出されていると思います。例えば、当法人の保育方針は、

「ヒトとしての生体の生活リズムを守り育て、発達を保障する」です。**運営法人の理念等と保護者の考えが一致して、園と家庭の協力で子育てが営まれることが大変重要です。**



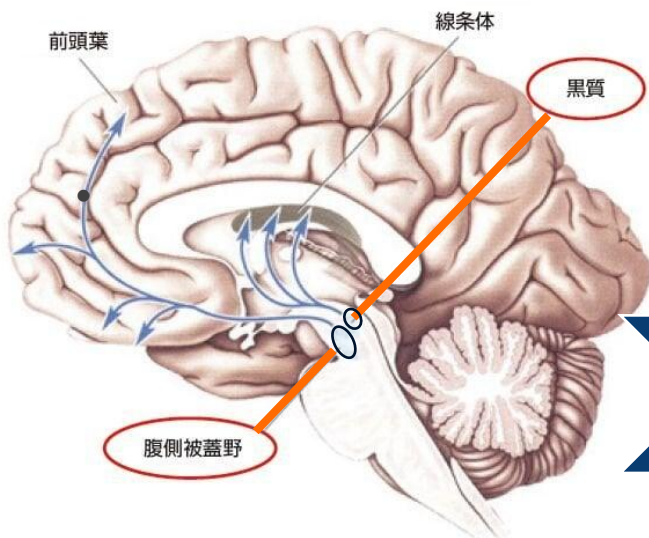
活動に意欲的でない子、励ましてもなかなかやろうとしない子にはどう対応したらいいですか？

学童保育指導員から

子どもは普通、集団の活動が「楽しそう（楽しい）・面白い・興味がある」と感じたり仲のいい子と連れ立って参加したりするものです。ですからまず、**集団活動がその子にとってどう受け止められるものなのか**、一度集団活動の内容を見直してみることが必要でしょう。また、気が合う子がいるかどうかなど**子ども集団の人間関係**も観察する必要もあるかもしれません。

- また一方では、下の図にある**ドーパミンの分泌と脳の働きの育ち**にも注意を払うことも大切な視点です。ドーパミンは報酬を得ようと期待している時、つまり「面白そうだ」と感じる時に、前頭葉を活発に働かせるホルモンです。夢中になっている時には、ドーパミンの分泌が良いといえます。実はこのホルモンは、夜の睡眠中に生成されて、脳幹部の中脳にある大きな神経核（神経の塊）である黒質や腹側被蓋野というところから日中に分泌されます。**良い睡眠がないと分泌不足になります。**

脳内神経ネットワークの「報酬系」(ドーパミン神経系)



・「やろうとしない」ではなく、「やりたいと思ってもできない」=脳がうまく働かない」状態、**脳の未熟さに起因しているかもしれません。**

・もう一つの観点として本当に参加していないのか、**どういう参加のし方をしているのか**観察し直してみましよう。参加のし方にも段階があります。本人の意思の尊重が原則です。

その場において雰囲気を感じる

見て、聞いて参加する

延滞模倣をする

一部分だけやる

一緒にやる

座ってられない。止まってられない。話を最後まで聞けない。

活動の説明やルールを話していても、最後まで聞かずに途中で動き出してしまう子がいます。じっと座ってられず保育士の話を落ち着いて聞けない。どうしたらいいのでしょうか。声かけだけでは効果がなく困っています。(5歳児) ※今回は運動発達の面から考えます。

年長児クラス保育士さんから

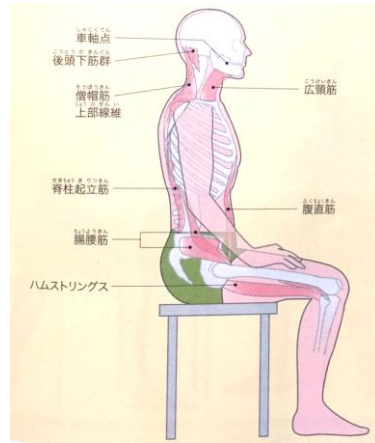
「姿勢を保てない」のは、**、**、**、**、
(ADHDなどの子どもについてはこの限りではありません。)

幼児のリズム運動やハイハイ、体操遊びを見ていると「止まる」ことのできない子が多く目につきます。そもそも日常生活の中で「止まる」という動作は子どもの場合は特に意識しなければできないのです。右の図の抗重力筋は地球の重力に対して姿勢を保つために働く筋肉のことです。下腿・大腿・腹部・胸部・首の各部前後に張り巡らされ、前後左右互いに伸び縮みをしながらバランスを取っています。(関節を曲げる働きをする屈筋と、伸ばす働きをする伸筋などを筋拮抗と言ひ、互いに反対の作用を同時に行う一対の筋肉があります。)

「ただ立っている状態」の時、からだのどの部分の筋肉が働いているのでしょうか。ももや腹、ふくらはぎや足指など様々な個所がバランスを取るため筋肉をちょうどいい状態に保持できるよう動かし続けています。これは脳の制御機能によるものです。

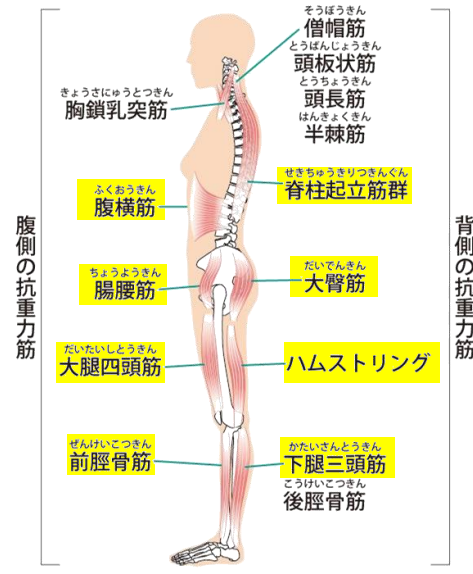
「きおつけ・休め」の姿勢さえ力を抜いているわけではありません。姿勢の保持は筋肉を正しくちょうどよく緊張させる「静止という運動」です。

全身の抗重力筋がしっかりと育っていないと、直立、座る、(止まる)という姿勢の保持は難しいです。



図の引用 「竹井仁：姿勢の教科書,夏目社,2015」

姿勢を保持する抗重力筋群



「Hot日本赤十字社」

「止まるためには動く」

筋肉は末端から中心に、大きい筋肉から小さい筋肉の順に育ち、3歳頃には短時間ならば直立ができるようになります。

その頃から駆けまわり飛び跳ねるなど、楽しくあそびながら、様々な構えやポーズをとろうとしたり、音を立てずにジャンプしてみたり、大きな音を立てて歩いてみるなど、自分のからだを意識的に調整して運動することで前後左右の筋力がバランスよく育ち、力加減をコントロールできるようになり、結果として静止状態を獲得します。



声かけをしつづけるだけでなく、まず姿勢保持ができるからだをつくっていくことが大切です。

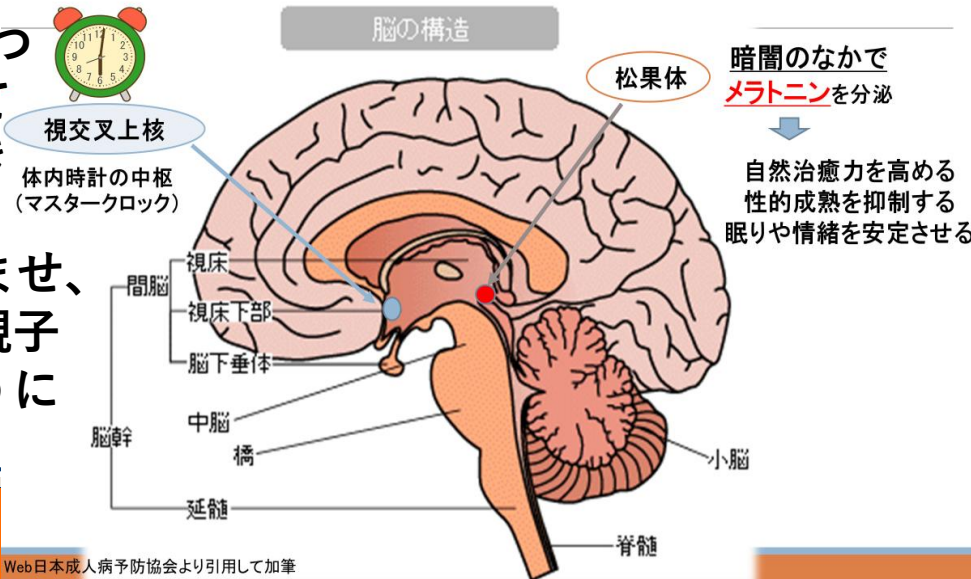
保育園から帰宅後、夕食の準備の時間から子どもにTVやビデオなどを見せて過ごさせたり、食事中に席を立たないようにするために見せたりしていますが、よくないですか？

保護者面談から

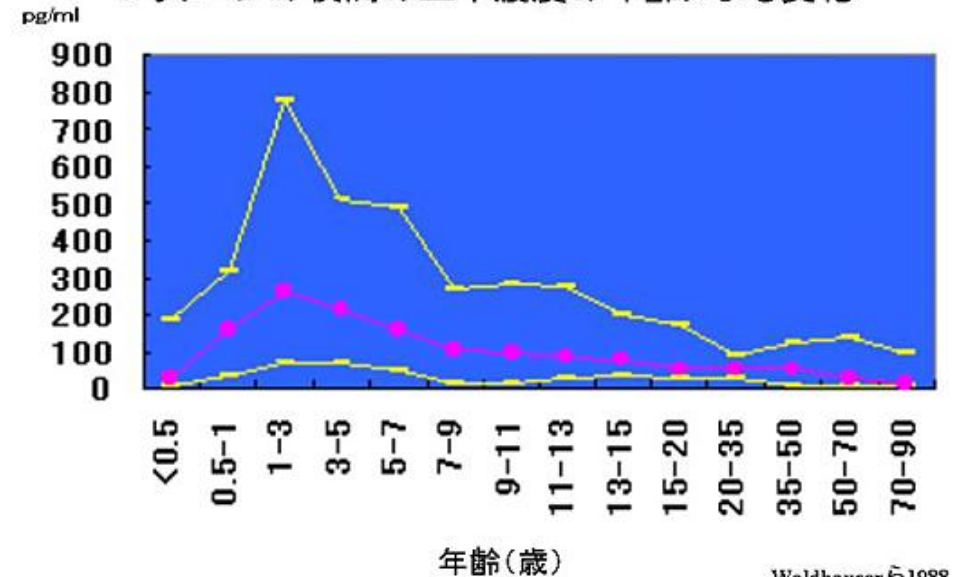
夕方から夜になり目に入る光の量が少なくなって暗闇を感じてくると、脳の真ん中奥深くにある**松果体**（松ぼっくりのような形をしている）という器官から**メラトニン**という物質が分泌されます。これが、次第に眠気をつくり、自然な入眠に誘います。ですから夕方からは部屋の明かりを落としていくなどして、**ブルーライト**（テレビやスマホなどの液晶画面に含まれる）などの強い光の刺激を避けることが安眠のコツです。

メラトニンは右のグラフのように、**脳・身体・心の発達に重要で幼少期に最も多く分泌します**。例えば、慢性的にメラトニン不足の脳をつくってしまうと、性的成熟が早まり、女子では早発月経を引き起こすことも知られていますので注意が必要です。

また、食事中TVがついていると、かえって食べることに専念できなくなります。30分程度で食事を済ませ、準備や片付けなどは親子で手早く済ませるように工夫しましょう。



メラトニンの夜間の血中濃度の年齢による変化



来年度就学を迎えるダウン症の児です。「特別支援学級に通うためにはトイレトレーニングが終了していないと…」と聞きました。おむつを外すにはどうしたらいいのでしょうか？

電話での発達相談から



まずは、**昼の排尿の間隔を確認**するようにしましょう。通常2歳くらいになると、膀胱に尿を溜め、おしっこの間隔が空くようになってきます。間隔が1時間半から2時間以上空くようになるとおしっこが我慢できるようになるため、トイレトレーニングの開始目安になります。紙おむつや紙パンツをやめて普通の布パンツをはかせて排泄の自律を目指していきましょう。

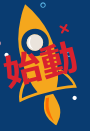


ダウン症の子どもは身体全体の筋肉が低緊張な状態にあるため、**腹筋・骨盤底筋・膀胱の括約筋などの筋肉の働き**が未発達で、排泄の自律が遅れる場合が少なくありません。そのような場合にあっても、もう来年度は就学ですから、右の図に示したようなやり方で、日中は紙パンツをやめて布パンツにし、トイレトレーニングをしましょう。

その際筋肉の働きだけでなく、**排泄中枢である視床下部が抗利尿ホルモン(バゾプレッシン)の分泌指令を出すように働きを強くすることが大切です**。「大事なポイント」である**早起き・早寝、運動、ストレスを与えないこと**に気をつけて進めていきましょう。

1時間半～2時間位の間隔で生活のリズムに合わせてトイレに誘う

・排泄はトイレでと意識付けをします（大人がしているところを見せるのもアリです）



便座に座らせる。座位が安定していることが大切

・補助便座や捕まれる所（大人が体幹を支えてもOK）があった方がいい子もいます

成功した時はよくほめる。出ない時も笑顔で「また今度、出る時に教えてね」

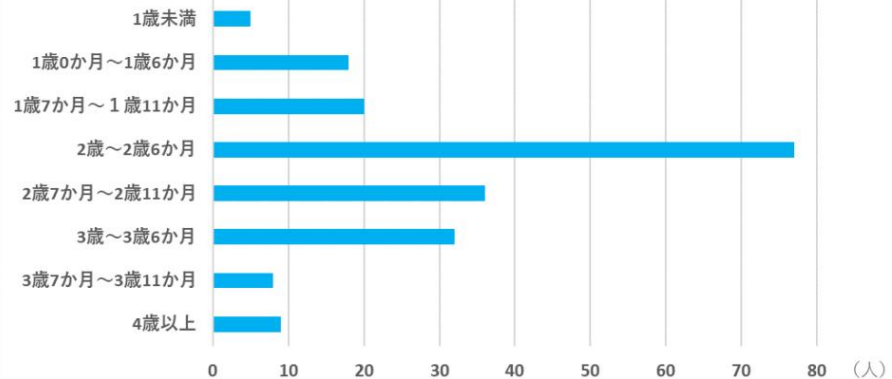
・お漏らししても叱らないこと、一緒にきれいにするのが大切です

大事なポイント

・叱らない。焦らない
・早起き・早寝の生活リズムで脳の働きを強く
・たくさん歩いて足腰・腹筋を強く育てる

トイレトレーニングをいつから始めましたか？

「2歳～2歳6か月」が77人／205人中でダントツの結果



グラフの引用 web 学研「こそだてまっぷ」より

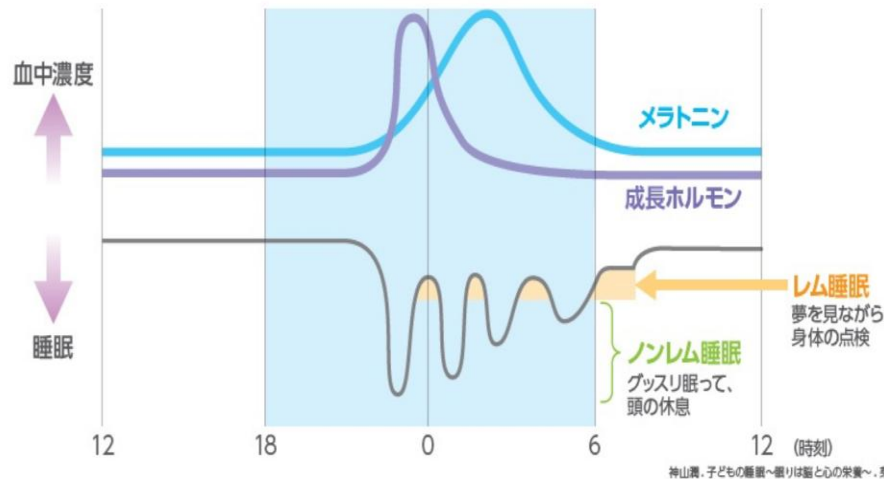
1歳1か月の子どもです。1日3食を完了食の状態でも食べられるようになりました。食後と寝る前と夜間に母乳を与えていますが、そろそろ断乳した方がいいのでしょうか？

子育て相談室での相談から

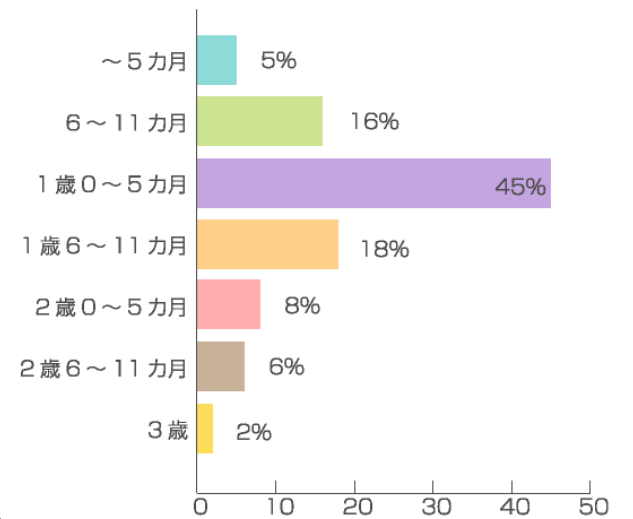
個人差はありますが、離乳食完了期（生後12～18ヵ月頃）になると、形のある食物をかみつぶして、エネルギーや栄養素の大部分を1日3回の食事と1日1～2回の補食から摂取できるようになります。また、水（湯冷まし）や薄めた麦茶などもストローやコップで上手に飲めるようになり、母乳あるいは育児用ミルクが要らなくなっていきます。「そろそろ断乳かな？」というサインと言えます。右の図のように、断乳の時期に対する質問に半数のお母さんが1歳半までに断乳をしたと答えています。



この時期の子どもは「食べる力」だけでなく、「眠る力」も発達していきます。実は、骨や筋肉を作る成長ホルモンや夜ぐっすり眠って自然治癒力を高めて脳・身体・情緒を守り育てるメラトニンは、1歳～2歳代に分泌のリズムを形成していくのです。ですから、夜は暗闇の中でしっかり眠る習慣を身につけていくことがとても大切です。夜間に軽い食事となってしまう授乳は、食事のリズムも睡眠のリズムも未発達な状態にしてしまう恐れがあります。夜中に子どもが目覚めてしまった時には、水分補給をして寝かしつけます。夜間の断乳に2～3日かかりますが、一度決めたら、子どもが泣いてもやり遂げましょう。



断乳したのはいつ？



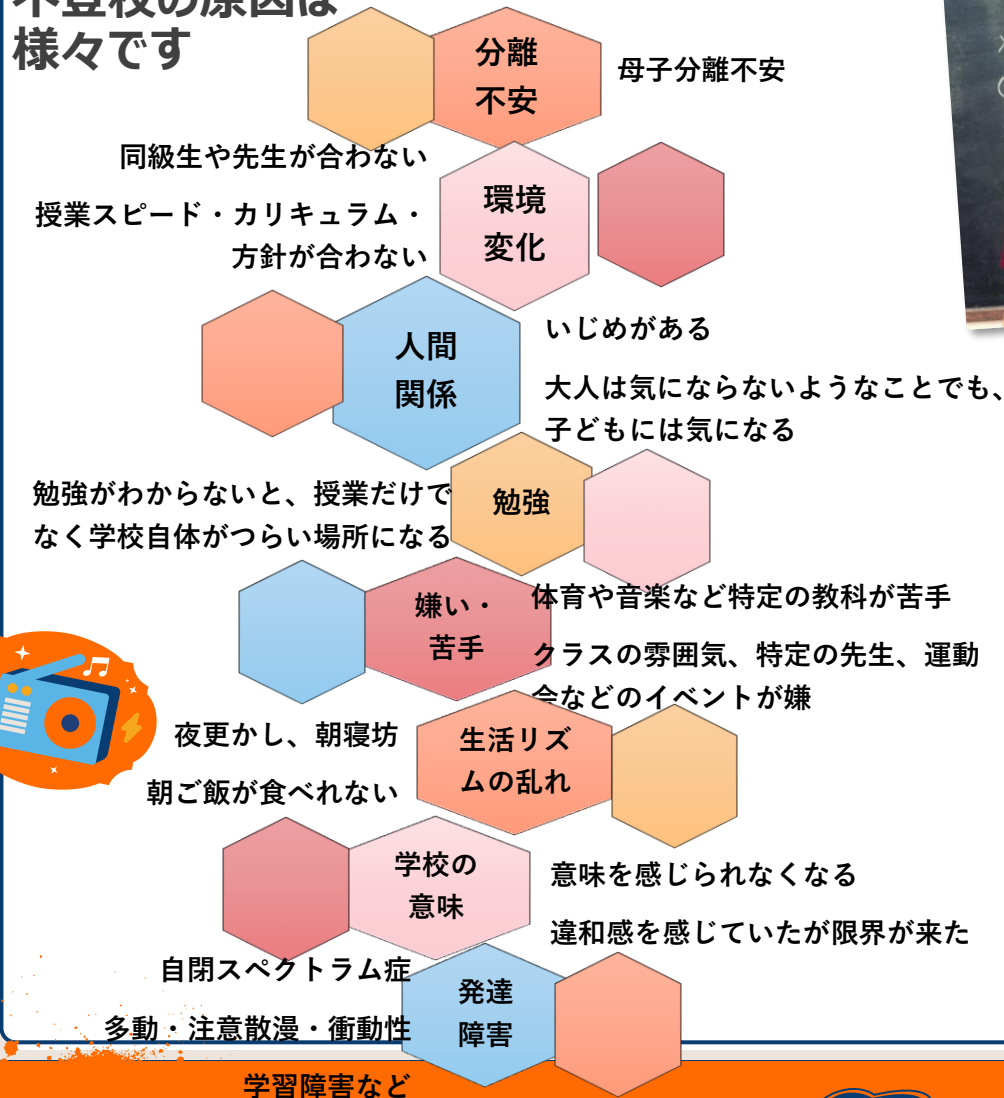
2016/2 会員アンケート | 単一回答 (n=213)

グラフの引用 web「たまひよ」より

1歳を過ぎるころから夜間の授乳をやめ、授乳回数を減らしていくことで徐々に母乳がつくられなくなり、母乳分泌量も減っていくようです。お母さんは、断乳ケア（＝断乳の経過途中で乳房トラブルがないか確認し、搾乳をして乳汁うっ滞を緩和させる乳房マッサージのこと）をしっかりと、母子共に夜ぐっすり眠れるようになりますように。

「先生がうざい」と言い、またクラスの子に何か言われると泣いてしまう、小学校高学年の児が1か月以上不登校です。脳のどこかに弱さがあるのでしょうか？

不登校の原因は様々です

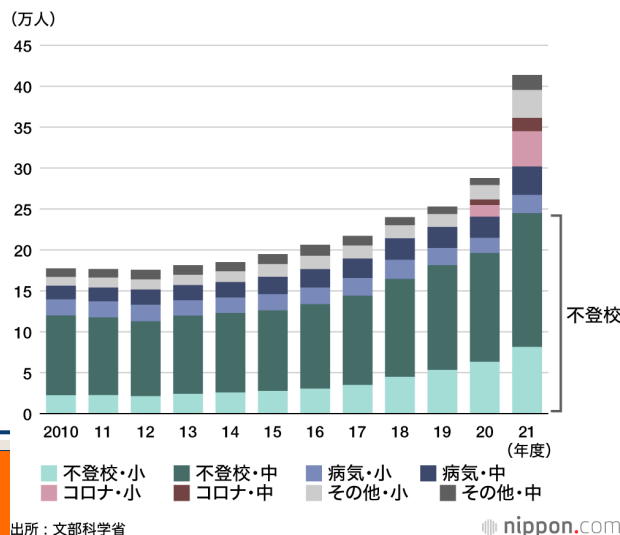


研修を聞いた保育士さんから

コロナ禍を経て、登校渋りや不登校の子どもたちが一段と増えたと言われています。また今でも、コロナの後遺症に苦しんでいる人たちが数多くいると聞きます。

本来は友達をつくり、一緒に遊び、学ぶことが楽しいはずの時期に、コロナ襲来で突然年度末に学校閉鎖、3密を避け、不要不急の外出禁止だったのですから、その時々が大切な、育ち盛りの子どもたちの人間関係を作る場と学びの場が失われてしまいました。「子ども期の今」を十分に楽しく充実したものに保障していくべき私たちは、これからたくさんの努力をしなければなりません。

小中学校における長期欠席の状況



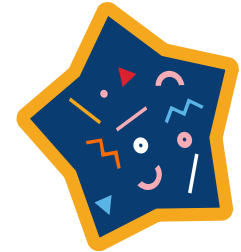
子どもたちが抱えている悩みやストレスは、右に示したように本当に様々あり、それがいくつか複合的に重なって、不登校などの状態になってしまっています。「脳のどこかに弱さがある」というよりも、「脳が未発達な状態にある」「うまく働きにくい状態に陥ってしまっている」と考えてはどうでしょうか。子どもの脳は、睡眠不足とストレスと孤独にとっても弱いものです。毎日の生活を夜の睡眠と楽しい家族とのコミュニケーションから見直してみましょう。気持ちよく朝起きることが第1歩です。

子育てにはほめることも叱ることも大切だというけれど、ほめ方叱り方は？

叱っても1度では言うことを聞いてくれない子にはどうしたらいいですか。一方ほめ方については「上手ね」を連発しない方がいいと聞きましたが、あえて声をかけるならどんなことばが適切でしょうか。

1歳半ごろから「ジブンデ！」「イヤ！」「チガウ」などと言うようになり、《自律性》が芽生え始め、2～3歳代はとても強い自己主張をするのが通常です。それだけ自分でできることや分かることが増えてきて、良い↔悪い、できる↔できないについての判断基準を自分で形成し始めているという成長発達の証なのです。しかしこれはあくまでも子どもの判断ですから、それが適切ではなかったり危険であったりすることも多くあります。できるようになったことや頑張っている時にはほめ、よし悪しを教えることも保育や子育てにおいて必要です。「何でも子どもの自由にする」「ほめて育てる」というのは違うと思います。

研修を聞いた保育士さんから



叱る…威厳ある態度で1度で叱る

向かい合って子どもの目をしっかり見て最も怖い顔で真剣に

- ・離れた距離で叱らない

だめ！やめて！いけません！などの一言で叱る

- ・1度で分からないことは、2度3度言っても分からない。叱り方が悪いと大人自らを反省する

対

口数多いのは一番よくない



ほめる…笑顔でにっこりうなづいて

これ以上の喜びはないという笑顔でうれしさを表現する一言を

- ・子どもは自分でもできた事が分かり、大好きな人に認められた充足感で満たされる→自己肯定感へ

身近な大人の笑顔が一番のご褒美

- ・物でご褒美を与えない。物のご褒美を与えられることが前提でないとやらない子では困ります

最も怖い顔と一番の笑顔を効果的に使える大人になりましょう。

大人の力量が試される時かもしれません。子どもも大人の顔や態度をよく見えています。

現在1歳11カ月、600gの早産児。「パパ・ママ」は言うけれど、ことばが増えていきません。障害があるのでは？と心配です。



約10か月間はお母さんのおなかの中で安心して育つはずの赤ちゃんが、何かのトラブルによって在胎6カ月と少して生まれて、その後も一生懸命生きています。まず、子どもが育ちやすい環境を整えましょう。

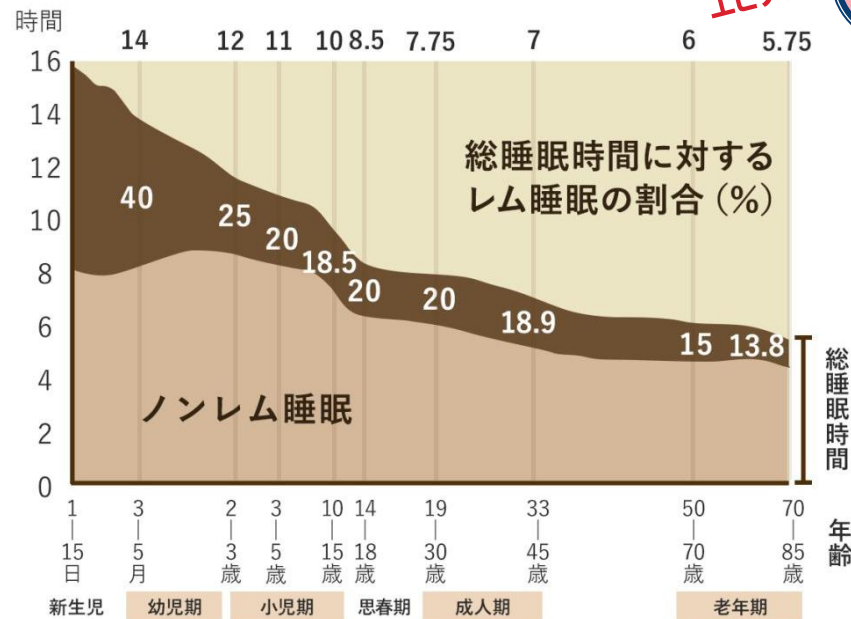
子育て相談室での相談から



お母さんのおなかの中（胎内）と生まれてからの私たちの社会生活（外界）では刺激量も安全性のリスクも大きく違います。赤ちゃんは生まれるとすぐ、光と音、匂いや身体に触れるものすべての刺激にさらされる環境に放り出されて生きていく宿命です。他の動物に比べてヒトだけが、特に未熟な状態で生まれてくるのです。未熟なカラダ（＝脳・身体・心）でそれらを少しずつを受け止めながら、同時に成長・発達させていきます。それは、ヒトの脳がとくに発達していく動物だからだと言われています。

総睡眠時間、レム睡眠、ノンレム睡眠の加齢による変化

エビデンス



①毎日の睡眠（夜間睡眠と昼寝）や食事、起きている時の遊びが、親子ともに、心地よく穏やかに繰り返り積み重ねられるようにしましょう。

②乳幼児期には個人差がありますが、11～14時間の睡眠（昼寝も合わせて）が必要です。図に示すように、記憶の整理をしたり内臓の働きや免疫力を高めたりするレム睡眠という浅い眠りが、脳と身体を守り育てていくのです。昼寝時にはレム睡眠が多く出ますから、一定時間の昼寝の習慣を身につけましょう。ゆっくりとした一定のリズムで肩や背をタッピングすると身体の力が抜けて眠り安くなります。

③こちらの言っていることが分かり、指差しをし、大人とよく声を出して笑い合って遊ぶことができているならば、心配はいりません。もっともっとまねが上手になるよう向かい合って遊みましょう。ことばも大人の模倣から覚えていきます。



Roffwarg HP, et al (1966) より改変

図の引用 web西川「ねむりのコラム」より